

核戦争防止 兵庫医師の声

第 90 号 2014 年度 6 月号

発行 核戦争を防止する

兵庫県医師の会

〒 650 - 0024

神戸市中央区海岸通 1-2-31

神戸フコク生命海岸通ビル 5 F

兵庫県保険医協会内

電 話 078 (393) 1807

振 替 01130-6-57830

関電神戸支店前行動 100 回目記念

“原発なくさナイト”に 500 人結集！



アピールに参加する川西敏雄運営委員（左）と住友直幹先生（右）

原発をなくそうと関西電力神戸支店前に、毎週金曜日に市民が集まりアピールする「関電神戸支店前行動」。100 回目を迎えた 5 月 30 日に、記念企画「☆原発なくさナイト☆第百夜」が開催され、市民 500 人が集まった。原発をなくす兵庫の会など複数の団体の主催。反核医師の会からは川西敏雄運営委員、山中忍・住友直幹・藤末衛・松岡泰夫各先生が参加した。川西運営委員が協会の被災地訪問活動と各地の反原発運動について発言した。2 年前から同行動に参加し続けている住友先生の参加記を紹介する。

(2 面に続く)

核戦争を防止する兵庫県医師の会 第 33 回総会の案内

日 時 7 月 27 日 (日)

会 場 兵庫県保険医協会 5 階会議室

議 事 14 時 30 分～

記念講演 15 時～

「アーサー・ビナードが語る ピカドンが教えてくれたこと」

講師 アーサー・ビナード さん (詩人)

懇 親 会 17 時 30 分～ ニューミュンヘン倶楽部 神戸元町店

参加費 5000 円

(詳細は 14 面)



集会参加者 500 人が関電神戸支社前で声を上げた

2012年7月6日から始まった反原発行動（毎週金曜日 18 時～、関電神戸支店前）が、5月30日に100回目を迎えました。

いつもは 50 人程度の市民の参加ですが、この日は 500 人が結集しました。折しも「大飯原発運転差し止め」という歴史的な判決（樋口英明裁判長・福井地裁）が出た後でもあり、反原発の波は再び大きくうねり始めました。

この神戸の行動は、組織の動員によるものではなく、市民一人ひとりの自発的参加だから持続力があり、未来にツケを回さないためには、原発ゼロが実現するまでライフワークとして取り組むぞという、

オジチャン・オバチャンの心意気に支えられて、今日を迎えられたと言えるでしょう。

恒例の関電神戸支店前での「原発いらない！」「再稼働反対！」のコールを行い、三宮マルイ前での集会は、歌や映像で盛り上がりました。保険医協会からも、役員・若手職員を中心に多数参加していました。

次の日の神戸新聞にも、写真付きで大きく取り上げられていました。

毎金曜 18 時、この次はあなたと関電前でお会いしましょう！

「戦争と医の倫理を考える」プレ企画

ハルビン視察報告学習会

日 時 8月23日（土） 16時～
会 場 兵庫県保険医協会 6階会議室
講 師 加藤擁一 運営委員

ハルビン、ヒロシマ・ナガサキ、そして福島 — 医師・医学者の戦争責任・戦後責任を検証する —

日 時 2015年2月14日（土） 17時～19時
会 場 兵庫県保険医協会 5階会議室
講 師 郷地秀夫 代表

ハルビン視察ツアー

戦争と医の倫理 問い続ける必要を実感

731部隊の遺跡を訪問



垣田さち子京都府保険医協会理事長（右）と731部隊の犠牲者に献花

全国保険医団体連合会（保団連）は5月3～6日、「2014 ハルビン視察ツアー～戦争と医学を考える」を開催した。中国ハルビンを訪問して、戦時中の731部隊の遺跡を見学するとともに、現地で調査・保存活動に取り組んでいる方々と懇談を行った。全体で25人が参加し、反核医師の会からは加藤擁一運営委員が参加した。以下に加藤運営委員の参加記を掲載する。

実質2日間のハードスケジュールではあったが、意義のある視察ができたのではないかと思います。

今回の訪中の最大の目的は、来年京都で行われる、日本医学会総会に向けて、「戦争と医の倫理」を考える企画を行うための準備をすることである。そのため・旧日本陸軍731部隊の遺跡を訪ねるとともに、現地で調査・保存活動に尽力していただいている方々と懇談を行ってきた。

4日、731部隊陳列館では、毒ガス戦や細菌戦実験の展示室を見学した後、金成民館長と懇談をした。また、中国のメディアの取材を受け、報道された。金館長は、遺跡を保存する苦労や意義を話され、現在世界遺産登録に向けて運動していることを紹介された。

731部隊の蛮行については、多少の知識は持っていたつもりではあったが、改めて、6000人と

もいわれる「マルタ」を人体実験で虐殺した現場の遺跡や当時の資料を見ると、日本人として、強い悔恨の念にかられる。厳粛な気持ちで犠牲者に献花してきた。

同日夕刻から、ハルビン医科大学付属病院を訪ね、若手医師たちと懇談した。中国の病院見学はなかなかできないことなので、医療の現状を見るいい機会になった。

翌5日はハルビン市内に点在する731部隊関連の遺構を見学した後、午後から黒竜江省社会科学院と懇談を行った。保団連とは十数年にわたる交流があり非常に歓待していただいた。

朱宇副書記は日中戦争の歴史研究の到達点などを話されるかたわら、ぎくしゃくした日中関係を改善するためにも、今後の民間交流の重要性を強調して

3面からつづく

おられた。交流会では、私たちはお礼に「北国の春」を一夜漬けの中国語で合唱披露した。

今日、日本では、侵略戦争を美化しようとする勢力が力をもたげているが、戦争の狂気を知る731部隊遺跡を、アウシュビッツや広島・長崎などとともに、ぜひ人類共通の遺産として、子孫に残してほしい。日中の真の平和・友好のため私たちにできることは、戦争の実相を伝え、平和憲法を守りぬ

くことであると思うと伝えた。

731部隊の幹部の多くは、戦後、罪を問われることなく医学界に復帰し、当時の人体実験のデータを使って名を成した人もいる。

医師・医学者が2度と戦争の加害者とならぬよう、「戦争と医の倫理」を、今日の課題としても問う必要があると感じた。来年の企画成功に向けて協力をお願いしたい。

＜医の倫理プレ企画案内は2面下に記載＞

郷地代表が県弁護士会で講演

低線量被ばく一事実に基づき科学的分析を



放射能汚染と甲状腺がんの関係について郷地代表（左上）が語った

4月15日、兵庫県弁護士会が主催する『低線量被ばく』に関する講演会で郷地秀夫代表が講師を務めた。当日は弁護士や司法書士ら40人が参加した。

講演で郷地代表は、福島県民の住民健診で、74人の子どもたちに甲状腺癌が発見され、福島県が『検診のスクリーニング効果で見つかった潜在がん』であり、『症状があって受診して見つかった臨床的甲状腺癌』とは異なるから、恐れることはないと説明していることについて、甲状腺癌の発症数の分布図

を示し、「この図だけで、放射線汚染と甲状腺癌に関係があるとは言えない。しかし、逆に『関係がない』とは、もっと言えないのではないのだろうか。データの少ないチェルノブイリや広島と長崎の被爆者を対象にした研究に基づく、先入観にとられることなく、被災者の出てくる事実を正確に書き残し、科学的に分析・判断していくことこそ重要な基本姿勢ではないだろうか」などと解説した。

質疑応答では、弁護士からこういったデータが訴訟で使えるのかなど具体的な質問が相次いだ。

九条の会・兵庫県医師の会「憲法無視の日米地位協定」

県民の命が危険にさらされている

元琉球新報論説委員・前泊博盛氏が講演



150 人以上の参加者が熱心に聞き入った

日本は主権を取り戻し、外交力を発揮してアジアと友好関係を——。九条の会・兵庫県医師の会は2月22日、核戦争を防止する兵庫県医師の会と共催で、講演会「知られていない米軍基地のこと 憲法無視の日米地位協定」を協会会議室で開催。沖縄国際大学大学院教授の前泊博盛氏が、日米安全保障条約の問題点や米軍基地を抱える沖縄の現状などを語り、会場いっぱいの会員・市民ら152人が聞き入った。

武力に頼らない安全保障へ

前泊氏は、沖縄県の地方紙・琉球新報の元論説委員で、日米地位協定に関する国の機密文書をスクープした経験をもち、『本当は憲法より大切な「日米地位協定入門」』（「戦後再発見」双書2、右写真）などの著書がある。

氏は、日米安保条約に基づき在日米軍の取り扱いを定める日米地位協定について、民主党の改定案を検証しながら、米軍施設・区域の使用には日本の法令が適用されない、環境基準がない、原状回復義務がない、低空飛行訓練が禁止されていないなど、数々の問題点を列挙。さらに、密約により、地位協定で定められたことすら守られていないのが現状であるとして、日本は主権を行使できないアメリカの属国であるということを、日米地位協定が象徴しているとした。



本を片手に日米地位協定について解説する前泊氏

また、在日米軍基地について、繰り返される性犯罪などの被害、沖縄国際大学への米軍ヘリ墜落事件やオスプレイの飛行訓練など、国民を危険にさらすものだと指摘。「抑止力」のために沖縄に基地は必要という論理に対しては、「（抑止力は）方便かとい

6面へつづく

6面からつづく

われれば方便」(鳩山由紀夫元首相)、「軍事的理由はないが、政治的理由から沖縄に奥しくない」(森本敏防衛相)などの発言から、破たんしており、基地の必要性はないと訴えた。

氏は、対米追従、軍事優先の日米安保体制から、武力に頼らない安全保障政策への転換が必要とし、経済的関係を深めることで域内紛争をなくしたEUに学び、アジア諸国との関係を強めAU(アジア共

同体)をつくるなど、日本は外交力を強化し発揮すべきであり、「九条は多角的安全保障として必要」だと強調した。

また、全国保険医団体連合会初代会長・中野信夫氏のご息女の中野圭子氏が、父親従軍記を再編集したブックレット『軍医殿!腹をやられました~インパール作戦ビルマ敗走記』(かもがわ出版)の普及を呼びかけた。(詳細は7面下に記載)

5・3神戸憲法集会

憲法と民主主義守ろう



民主主義について熱弁をふるう内田樹氏(左上)の講演に
真剣に聞き入る1100人の参加者

5月3日の憲法記念日に、神戸憲法集会が神戸芸術センターで開かれ、会場いっぱいの1100人以上が参加した。

内田樹神戸女学院大学名誉教授が「グローバル化と国民国家の危機」について講演。内田氏は冒頭、神戸市と市教育委員会が同集会への後援を拒否したことに触れ、公務員の憲法尊重・擁護義務を定めた憲法99条に違反すると指摘した。

日本国憲法について、GHQの占領下で作成され、「日本国民」が不在であったために本質的に脆弱であり、憲法を活かすためには国民一人ひとりの具体

的实践が必要と語った。

そして、政治が効率化を追い求め、株式会社化しているため、安倍内閣が集団的自衛権行使を解釈改憲で容認しようとしているなど、トップダウン式に拙速な政策決定がされようとしていると説明。これに対抗するためには、国民一人ひとりが民主主義と憲法を守り、慎重に政策を判断することが大切だと訴えた。

池内春樹、武村義人、川西敏雄各運営委員、藤末衛先生、松岡泰夫先生、住友直幹先生が参加した。

避難者訴訟 市民学習会

子どもたちの未来のため支援を



「子どもたちの未来と健康を守るため、裁判を決意した」と語る森松氏

「非核の政府を求める兵庫の会」は、核戦争を防止する兵庫県医師の会と共催で4月5日、兵庫県保険医協会会議室で市民学習会『究極の選択』を強いたのは誰か 原発賠償訴訟の問うていること』を開催し50人が参加した。原発賠償関西訴訟原告団代表の森松明希子氏、と同訴訟弁護団の中島宏治弁護士、ひょうご原発賠償訴訟弁護団の津久井進弁護士が話題提供した。

森松氏は、「福島第一原発を中心に同心円状に、徐々に強制避難区域が広がってくることがすごく恐ろしかった」、「ある日、テレビで、『東京の浄水場で、放射性物質が検出された』というニュースを見て、それよりも近い福島の水道水は、当然、汚染されていると感じたが、生きるために、水を飲まなければならなかった」と被災の実相を語った。

また、訴訟を起こしたことについて、「この裁判

は子どもたちの未来と健康を守るための裁判。事故を忘れさせられないためにも、多くの人に興味を持ち続けてほしい」と訴えた。

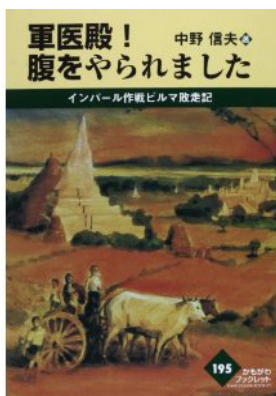
また中島弁護士は、訴訟について、自身が水俣病の裁判にかかわった経験から、企業や国の論理が優先されて被害が拡大したことや、被害者の生活困窮に乗じて見舞金を支払うことで企業が責任逃れを行うことなど、これまでの公害裁判との類似点を指摘した。一方、被害が目に見えない点、健康被害が出たから裁判を起こしたわけではなく、「避難」を問



会場には50人が集まって学習

題にしている点などが、これまでの裁判と異なっており、訴訟を難しくすると解説した。

また、津久井弁護士から、兵庫の裁判の特徴として、訴状にこれまで原発推進を容認する姿勢を示してきた司法の問題点や阪神淡路大震災から市民が立ち上がり救済制度をつくってきた経験を盛り込んだと述べた。



中野信夫先生（初代保団連会長）の従軍記 「軍医殿！ 腹をやられました」が出版されました

太平洋戦争末期のインパール作戦。ビルマ（現ミャンマー）からインドに進攻する無謀な作戦で幾万人もの将兵が命を落とした。著者は軍医としてこれに従軍し奇跡的に生還し体験記を著した。2014年はインパール作戦から70年。戦場の真実を伝え、不戦の誓いを共有するために、ブックレットに再編集した。

ジャングルを敗走する将兵は飢えと伝染病に襲われ、動けなくなったものはそのまま放置された。夕暮れになると決まって「自爆死」するものが出た。

協会に本の在庫がございます。無料で提供いたしますので、希望される方は

TEL 078-393-1807 までご連絡下さい。

7人全員の原爆症認定-大阪地裁-



雨の中訴えをする原告団

広島、長崎に投下された原子爆弾による原爆症認定の申請を、旧基準で却下された被ばく者が処分取り消しを求めた裁判で、3月20日、大阪地方裁判所は、原告7人のうち、行政が昨年末に見直した新基準で認定されなかった3名以外の原告4人全員についても「健康に影響を及ぼす線量の放射線に被ばくした」と判断し、原爆症と認定すべきとの判決を下した。原告の国への賠償請求は棄却した。

核戦争を防止する兵庫県医師の会は、原爆症認定集団訴訟、ノーモア・ヒバクシャ訴訟に取り組む支援ネットワークを発足当初から支援し、郷地秀夫代表が支援ネットワークの代表も務めている。これまでも郷地代表は原告の側から医師尋問に立ち、証言している。

新基準は、旧基準から一定の改善された部分はあるが、病名と被ばく距離、入市時刻などで被ばく者を線引きし、被ばく者を切り捨てるものに変わりはない。今回は新基準導入後の初めての判決で、注目が集まっていた。

判決は、原爆症認定は「被ばく状況や被ばく後の症状などに照らし検討すべき」とし、各原告の健康に影響を及ぼすような内部被ばくも含めた、相当程度の線量の放射線に被ばくしたものと認め、認定した。現行の認定制度が事実上否定された形の判決である。

原告の一人は、「皆さまの支援のおかげで勝訴することができました。まだ多くの被ばく者の方が原爆症だと認められていません。早期に全被ばく者が救済されるために、新基準の抜本的な見直しを求め、今後は逆に被ばく者の方を支援していきたい」と



全員勝訴の判決に万歳して喜ぶ弁護団と支援者ら語った。

今回の判決を受け、ノーモア・ヒバクシャ訴訟原告団、弁護団は、厚生労働省に対し、控訴せず本判決に従うこと、被ばく者が裁判をする必要がないように原爆症認定制度を抜本的に改めること、被ばく者の命あるうちに問題を解決することなどを求める要望書を提出した。

原水爆禁止世界大会が広島で開催されます

8月4日(月)～6日(水)

ことしの大会は2015年核不拡散条約(NPT)再検討会議、原爆投下70年を翌年に控えています。「生きているうちに核兵器のない世界を」の被爆者の願いの実現へ、大きな役割を果たす大会にしなければなりません。核兵器のない世界を願うすべてのみなさんが大会を支持し、連帯の行動を起こし、大会に参加されるようよびかけます。



内容 8月4日 世界大会開会総会
8月5日 分科会、動く分科会など
8月6日 平和祈念式典(広島平和公園)
世界大会閉会総会

お申込みは兵庫県反核医師の会
(担当事務局: 平田・栗山 TEL 078-393-1807,
FAX 078-393-1802 mail: kuriyama-h@doc-net.or.jp) まで

2013年度会費納入のお願い

核戦争を防止する兵庫医師の会は会員の皆様の会費によって成り立っております。今年度(過年度)の会費を同封されている振り込み用紙にてお振り込みいただけますようよろしくお願いいたします。

「兵庫医師の声」では会員の方からの記事の投稿や企画の提案などを募集しております。お気軽にお問い合わせください。

兵庫県反核医師の会担当事務局 栗山
(kuriyama-h@doc-net.or.jp) まで

第 21 回 IPPNW（核戦争防止国際医師会議）世界大会のご案内

Disarmament, Peace and Global Health in the 21st Century

◇会期：2014 年 8 月 27 日（水）～ 8 月 29 日（金）

◇会議プログラム

8 月 27 日

- | | | | |
|-------|---|-------|------------------|
| 8:45 | — | 10:15 | 開会式 |
| 10:30 | — | 12:10 | 基調演説 |
| 13:10 | — | 14:40 | 本会議 1：核兵器の人道的な影響 |
| 15:00 | — | 16:30 | ワークショップ |

8 月 28 日

- | | | | |
|-------|---|-------|---|
| 9:00 | — | 10:30 | 本会議 2：公衆衛生危機としての武装暴力行為 |
| 11:00 | — | 12:30 | ワークショップ |
| 13:30 | — | 15:00 | 本会議 3：セミパラチンスク核実験場における核実験の生医学的、
環境影響 |
| 15:30 | — | 17:00 | 本会議 4：核連鎖の健康への影響 |

8 月 29 日

- | | | | |
|-------|---|-------|------------------------------|
| 9:00 | — | 10:30 | 本会議 5：核廃止のための政治過程：ICAN と禁止条約 |
| 10:45 | — | 11:45 | 本会議 6：エネルギーと創造力のマルチメディアの称賛 |
| 11:45 | — | 12:30 | 閉会式 |

◇行程：2014 年 8 月 26 日（火）～ 2014 年 8 月 30 日（土）の 5 日間

8 月 26 日（火）ソウル・インチョン空港に 16 時ごろ集合

ソウル→アルマトウイ（泊）

27 日（水）アルマトウイ→アスタナ→大会会場

29 日（金）19 時ごろ アスタナ→アルマトウイ→ソウル

30 日（土）ソウル解散 8 時



参加費 40 万円

登録費用 35100 円

申込は反核医師の会事務局まで

TEL 078-393-1807（直）mail kuriyama-h@doc-net.or.jp（栗山）

兵庫県保険医協会西宮・芦屋支部 第34回総会記念市民公開企画

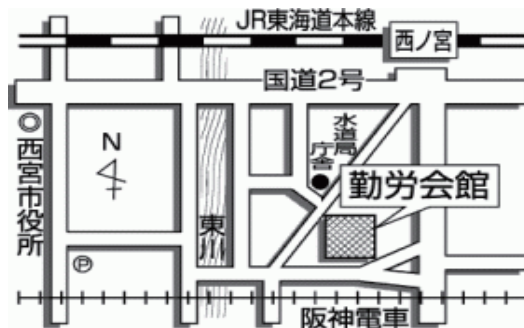
小出裕章氏が語る 子どもたちの未来と大人たちの責任



今年の総会記念市民公開企画は、原子力の専門家として40年以上にわたり原発事故の危険性を訴えてきた小出裕章さんに、3.11福島原発事故を経験した私たちが未来を担う子どもたちに果たすべき責任についてお話いただきます。多数のみなさまのご参加をお待ちしております。

小出裕章（こいで・ひろあき）さん プロフィール

1949年東京生まれ。日本の工学者（原子力工学）。京都大学原子炉実験所助教。原子力の平和利用を志して1968年に東北大学工学部原子核工学科に入學するも、放射能被害の実態を知り、原子力に反対する立場を取り始める。女川原発の反対運動、伊方原発裁判、人形峠のウラン残土問題、JOC臨界事故など、放射能被害者の側に立って活動、原子力の専門家としてその危険性を訴え続けている。



と き 7月19日(土) 14時開場

14時30分開演(16時30分終了予定)

ところ 西宮市立勤労会館大ホール

西宮市松原町2-37 (JR西宮駅南へ徒歩10分)
TEL0798-34-1662

後 援 西宮市、西宮市教育委員会、芦屋市、
芦屋市教育委員会、神戸新聞社

入場無料 どなたでもご参加いただけます。 要事前申し込み制 定員先着400人

主催 兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部 〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5階

お問い合わせは協会事務局 山田・岡林・伊藤まで TEL: 078-393-1803 E-mail: yamada-t@doc-net.or.jp

【FAX返信 078(393)1802】 ※切り取らずこのままFAXしてください

兵庫県保険医協会西宮・芦屋支部 第34回総会記念市民公開企画

小出裕章講演会に参加します ()人

所 属() お名前()
TEL() FAX()

非核の政府を求める兵庫の会 市民学習会

白滅に向かう原発大国日本？

原発・核政策による国民殺戮行為をいかに阻止すべきか？

日 時 7月12日(土)17:00～19:00

会 場 兵庫県保険医協会 6階会議室

講 師 田中 利幸 さん (広島市立大学広島平和研究所教授)

主 催 非核の政府を求める兵庫の会 問合せ・事務局 電話 078-393-1833 shin-ok@doc-net.or.jp

共 催 核戦争を防止する兵庫県医師の会 / 神戸YWCA 平和活動部 協 賛 市民社会フォーラム

チェルノブイリ原発事故に並ぶ史上最悪の原発事故である福島第1原発事故から3年余りを経た今、「事故収束」どころか、46万トン(2014年4月現在)という汚染水を原発敷地内に溜め込み、毎月1万トン以上を今も増やし続けている上に、高濃度放射能汚染水は垂れ流しの状態。環境汚染はすでにカナダ・米国の太平洋沿岸にまで広がっています。

福島県民の13万人以上にのぼる避難民が故郷に戻れる可能性は閉ざされています。しかも、福島第1原発の1～4号機の廃炉には、おそらく半世紀以上の年月と推計すら不可能な莫大な経費が必要です。広域にわたる自然環境と多くの市民の生命・人権を甚だしく侵し、後世の人間にも大きな負担をもたらすこのような原発事故は、「核兵器の使用」同様に、まさに「人道に対する罪」です。

にもかかわらず、安倍政権は原発再稼働に向けてがむしゃらに政治圧力をかけ、原発の海外輸出まで強力に推進しているありさま。このままでは、日本は自滅の道を滑り落ちていく危険性を抱えています。

本講演では、まず、日本はなぜゆえにこのような原発大国になってしまったのか、日本の原発推進が核兵器製造能力開発といかに密接に絡んでいたのか、その歴史過程を簡潔に説明します。

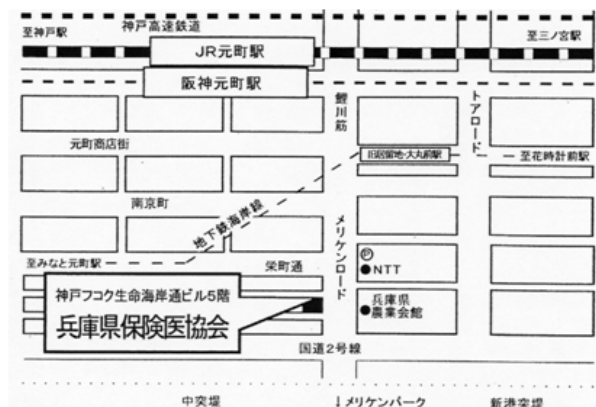
また、原発事故のみならず原発設置そのものが、核兵器保有・使用と同様に、日本国憲法から観ても、また国際法に照らしても明らかに「犯罪行為」であることを解説します。

これらの知識を基礎に、私たちはいかに原発・核政策による国民殺戮行為を阻止すべきなのか、その方向性について考えてみます。

田中利幸(たなか・としゆき)さん

西オーストラリア大学にて博士号取得。現在、広島市立大学広島平和研究所教授。著書に『知られざる戦争犯罪』(大月書店、1993年)、『空の戦争史』(講談社、2008年)、ピーター・カズニックとの共著『原発とヒロシマー「原子力平和利用」の真相』(岩波書店、2011年)など。

保険医協会会議室(神戸フコク生命海岸通りビル6階)



J R・阪神 元町駅下車東口から南へ徒歩7分

非核の政府を求める兵庫の会 市民学習会

辛淑玉さんとともに考えよう

平和と人権—レイシズム問題を中心に

日 時 8月30日(土)14:30～17:00

会 場 兵庫県保険医協会5階会議室

講 師 辛 淑玉 さん(人材育成技術研究所所長、のりこえねっと共同代表)

※関西のカウンター行動メンバーもゲスト出演予定

参加費 1000円

主 催 非核の政府を求める兵庫の会 問合先・事務局 電話 078-393-1833 shin-ok@doc-net.or.jp

協 賛 九条の会、ひがしなだ / 神戸学生青年センター / 市民社会フォーラム

昨年の流行語大賞にもなるほど社会問題として注視されるようになった「ヘイトスピーチ」は、いまだ各地で繰り返されています。多文化のもとで共生する人びとの平穏な生活を切り裂き、民族差別や人種偏見に満ちた、侮辱的、脅迫的言動が繰り返されているのです。ヘイトスピーチは、「市民として生きる権利」を希求する人類の普遍的価値を否定するものです。

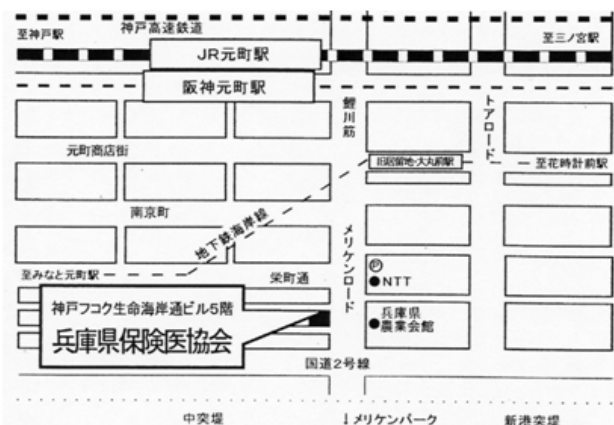
他方、安倍政権のもとで、近隣国と歴史認識・領土問題での軋轢が生じ、また秘密保護法、集団的自衛権の容認など人権と平和を脅かす流れがあります。

日本軍「慰安婦」問題やヘイトスピーチに象徴される「上から」と「下から」のレイシズムについて、辛淑玉さんにお話をうかがい、関西でヘイトスピーチへのカウンター行動の取り組んでいる方をゲストにお招きし、皆さんと交流します。

【辛淑玉(しん・すど)さん】

人材育成技術研究所所長。東京生まれの在日コリアン3世。企業、自治体、教育機関からの依頼で人材育成、人権・男女共同参画に関する講演等を行う。東日本大震災以降は被災地支援にも尽力。2013年ヘイトスピーチとレイシズムを乗り越える国際ネットワーク「のりこえねっと」を立ち上げ共同代表に就任。「2013エイボン女性年度賞」受賞。

保険医協会会議室(神戸フコク生命海岸通りビル5階)



JR・阪神 元町駅下車東口から南へ徒歩7分



核戦争を防止する兵庫県医師の会 第 33 回総会記念企画

アーサー・ビナードが語る ピカドンが教えてくれたこと

時の詩人アーサー・ビナードさんに、ヒロシマ・ナガサキでの原爆投下、福島原発事故を中心に、原子力の戦争利用・平和利用の真実について語っていただきます。

●日 時 : 7月27日(日)

14時30分～15時 総会議事

15時 ～17時 記念企画

「アーサー・ビナードが語る ピカドンが教えてくれたこと」

講 師 アーサー・ビナード さん (詩人)

17時30分～ 懇親会(会費 5,000円) 会場:ニューミュンヘン倶楽部

●会 場:兵庫県保険医協会 会議室

※どなたでもご参加いただけます



アーサー・ビナード (Arthur Binard) さん

1967年、米国ミシガン州生まれ。ニューヨーク州のコルゲート大学で英米文学を学び、卒業と同時に来日、日本語での詩作を始める。詩集『釣り上げては』(思潮社)で中原中也賞、絵本『ここが家だ——ベン・シャーンの第五福竜丸』(集英社)で日本絵本賞、絵本『さがしています』(童心社)で講談社出版文化賞を受賞。著書はエッセイ集『アーサーの言の葉食堂』(アルク)など多数。

返信FAX 078-393-1802

お申し込み、お問い合わせは兵庫県保険医協会 (TEL 078-393-1807) 平田・岡林まで

●反核医師の会 総会に

☐参加

●記念企画に

☐参加 () 人

●懇親会に

☐参加

医療機関名 () 氏名 ()